

詩誌 引き継ぎ

いま、詩誌を創刊すること

瞑想するために

それらはいつも道を示す

すべての間違いや、目的のなさはいつもわたしたちのバランスをとる。それらは人間の背骨の左右にあり、緊張を緩め人類に静かな喜びを与える。また、人類がそれらを肯定的に捉えることは、人類自身がエゴによるコントロールから逃れ、自分自身（まぎれもない真実）であることを助ける。そしてそれらはまた詩のエンジンとしての役割も果たす。ことばは自由であるより不自由であるように、誤用されているさなかにあるのかもしれない。もちろんすでにおわりのようにこれは決して、詩誌だけのはなしでもなければ、「詩」だけのはなしでもない。

詩はいつもエゴイステイックな価値付けに対して闘いを挑み、人間によって価値のつけられる以前の無を觀せ聴かせる。詩はいつも人々が瞑想し、集中し、純朴に、気付くことを助ける。

このばあい、われわれは音ではなく、箱である。

箱の外の音を箱のうちに鳴らすことができるか。

いまがいかなるときであったとしても+

もちろんすでにおわりのようにこれは決して、詩誌だけのはなしでもなければ、「詩」だけのはなしでもない。